

「自立した生活」「働く」をサポートします ～ 1日の生活を通して、サポートするための取り組み～

●自室内環境

車椅子対応の洗面所やベランダまでバリアフリーになっていることが特徴。

※車椅子対応ではない、バリア環境の部屋もあり、自宅、アパートなどの復帰条件に応じて、転床することもあります。



●ADL

<食事>

配膳、下膳も自身で行います。利用者に応じて、運搬カートを活用しています。



<トイレ>

車椅子の方でも利用しやすい環境となっています。利用者に応じて印や視覚提示を行っています。



<浴室>

一人で入れる方は、自分で時間予約をします。入浴後は、浴室内をシャワーで綺麗に流すまでが役割となります。



取材・文責：
広報編集部 田上 大祐 (仁淀病院)

取材：
地域連携部 障害福祉班
町田 佐和 (高知大学医学部附属病院)
辻 美和 (高知リハビリテーション専門職大学)
広報編集部
森 祐輔 (だいちリハビリテーション病院)

●機能訓練室

利用者に応じてスケジュールを作成しています。基本的に自身で時間管理を促していますが、困難な場合には声かけを行います。内容は筋力訓練・生活動作訓練・机上訓練・就労に向けてパソコンでの課題活動など多岐に渡ります。歩行訓練は、距離に応じて施設内に様々なコース設定を行い、自身で歩行距離を可視化できるようにしています。(利用者に必要な訓練があれば、適宜、変更して支援をしています。)



「自立」と「自律」

人との関わり

未来を考える

●他者交流や趣味活動・社会参加の促進

利用者同士の交流は、談話室などを活用しています。

屋上では、読書をしたり、ギターを演奏する方など、個々の趣味や余暇時間を大切にしています。施設に隣接するバス停があり、外出・社会参加の支援を行っています。

利用者が中庭の落ち葉で作った作品を展示しています。季節に応じて様々な作品を飾りつけします。



●IADL

<洗濯>

縦型・ドラム式を設置しており、干場は車椅子の方でも利用できるように、様々な高さの干し竿を完備しています。

※カゴを所定の場所に置くことで、次順番を利用者が管理しています。



<掃除>

可能な方は、自室の掃除は自身で行います。廊下に掃除機(コード式・コードレス)・クイックルワイパーなど完備しており、自分で準備から片付けまで行います。



<ゴミ捨て>

分別まで自身で行います。退所後の生活の場所に応じて、資源ゴミのまとめ作業なども行います。

<買い物>

週2回の移動販売を活用する方や、必要な方には近くのコンビニでの買い物を支援しています。

<金銭管理>

利用者に応じて、小遣い帳を活用し、自身で管理ができるように支援しています。



<調理>

管理栄養士が栄養指導を行いながら、作業療法士と調理訓練を行います。食材は一緒にスーパーや移動販売で購入したり、畑で収穫した食材を使っています。



ADLやIADLは、作業療法士が積極的に介入し、獲得に向けて支援をしています。